科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX129／外国法(ドイツ法) (Legal Systems(Germany))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ドイツ民法を中心に		
担当者名 (Instructor)	亀岡　倫史(KAMEOKA MICHIFUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

明治以降、日本法の形成に大きな影響を及ぼしてきた外国法のひとつであるドイツ法、とりわけドイツ民法について学び，わが国の法制度の成り立ちを再考し，その基本的な枠組みや解釈論を相対化する視点を持つことができるようになる。

The objectives of this course are to learn about German law, specifically German Civil Law, as one area of foreign law which had a significant impact on the formation of Japanese law, to reconsider the origins of the Japanese legal system, and to become able to hold a perspective which relativizes that fundamental framework and interpretive theory.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、ドイツ法につき、ドイツ民法を中心に、これに関連する諸問題を比較法的な視点から取り扱います。

まず、最初に、ドイツ法全体について簡単に概観したうえで、ドイツ民法典の起草過程における議論、ドイツ民法典成立後現在に至るまでのドイツ民法の史的展開をフォローし、ドイツ法、とりわけドイツ民法の特徴を明らかにします。その際、近時のドイツ民法の動向、とりわけ 2001 年のドイツ民法典債権編の大改正以降の動向、消費者保護思想の浸透、EU 法の影響の増大などにも言及します。

そのうえで、ドイツ民法典の体系に即して、総則、債務法、物権法、家族法、相続法の順に、それぞれの規律内容を概観しながら、ドイツ民法の重要な基本概念・諸制度・現代的なトピックにつき、―我が国の民法解釈論への影響をも視野に入れつつ―、講義します。

最後に、民法以外の法分野についても、ごく簡単にその概要を紹介します。

The lectures will cover German law with a focus on German Civil Law and look at various related problems from a comparative law perspective.

First, we will take a simple bird's-eye view of German law as a whole and then follow the arguments within the drafting process of the German Civil Code as well as the historical developments within German Civil Law from the establishment of the German Civil Code up to the present to clarify the characteristics of German law and German Civil Law in particular. At that time, we will reference issues such as the recent trends in German civil law, especially the trends since the major revision to the claims section of the German Civil Code in 2001, the spread of the idea of consumer protection, and the increase in the influence of EU law.

In addition, we will follow the structure of the German Civil Code to survey the disciplinary details of the Book of General Provisions of the Civil Code, Law of Obligation, Law of Property, Family Law, and Law of Succession in that order as we cover the important fundamental concepts, various systems, and contemporary topics in German civil law while keeping the impact on Japan's Civil Law interpretive theory in perspective.

Finally, we will introduce a very simple overview of legal areas outside of Civil Law.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入―ドイツ法を学ぶ意義。民法学におけるドイツ法の影響
2. ドイツ法全体の概観―その法伝統、法の諸領域、主要な法源、法学教育と法律専門職など
3. ドイツ私法史―ドイツ民法典(BGB)の成立およびその後の展開
4. ドイツ民法典の体系・法技術・基本思想
5. ドイツ民法典第 1 編「総則(Allgmeiner Teil)」(1)
6. ドイツ民法典第 1 編「総則(Allgmeiner Teil)」(2)
7. ドイツ民法典第 2 編「債務法(Schuldrecht)」(1)
8. ドイツ民法典第 2 編「債務法(Schuldrecht)」(2)
9. ドイツ民法典第 3 編「物権法(Sachenrecht)」(1)
10. ドイツ民法典第 3 編「物権法(Sachenrecht)」(2)
11. ドイツ民法典第 4 編「家族法(Familienrecht)」
12. ドイツ民法典第 5 編「相続法(Erbrecht)」
13. 民法以外のその他の法領域
14. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業の前後に十分に時間をかけた予習・復習が必要です。予習として、Blackboard に事前アップロードする「教材（講義レジュメ）」に目を通してから授業に参加してください。毎回、Blackboard「課題」を出しますので、授業を受けた後に、その都度指定される提出期間内に必ずこの課題を提出してください。これが復習に相当します。

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(50%)/各回授業についての課題(50%)
平常点についての補足：授業後に、原則として、毎回、課題（講義内容の 200 字以上 400 字以内の要約・コメント）を Blackboard で、指定期間内に、提出していただきます（期間経過後の提出は一切認めません）。これにより平常点を評価します。

テキスト（Textbooks）

教科書（テキスト）は特に指定しません。担当教員が作成・提供する「教材（講義レジュメ等）」に即して授業を行います。

参考文献（Readings）

1. 村上淳一ほか、2018 年、『ドイツ法入門　改訂第 9 版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-04822-5)
2. ディーター・ライポルト著／円谷峻　訳、2015 年、『ドイツ民法総論　第 2 版』、成文堂 (ISBN:978-4-7923-2646-3)
3. Robbers. 2019 年. *Einführung in das deutsche Recht, 7. Auflage*. Nomos (ISBN:978-3-8487-5833-3)

上記3には、つぎの英訳版があります。
Robbers, An Introduction to German Law, 7.ed. Nomos 2019.; ISBN: 978-3848758340

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

(1)「教材（講義レジュメ等）」の配布には、Blackboard を使用します。各自で、プリントアウトしたり、端末(パソコンやタブレット等)にダウンロードするなどして授業中に参照できるようにしてください。
(2)初回の授業で、本講義の基本コンセプト、授業方法の詳細、成績評価の方法などについて具体的に説明しますので、必ず、出席してください。
(3)本講義に関する担当教員から受講生のみなさんへの連絡はメール送信機能を用いて行います。担当教員への本講義に関する質問等は SPIRIT メールにより受け付けます。
(4)本シラバスの記載は、シラバス執筆時点の計画であり、本講義開講時点での若干の変更を留保しておきます。変更がある場合、初回の授業でその旨を説明します。

注意事項（Notice）